

会 議 結 果

会議名	平成29年度 第1回西尾市地域公共交通活性化協議会
日時	平成29年6月29日(木) 午後2時15分～午後3時55分
場所	西尾市役所 4階 41会議室
出席者	西尾市地域公共交通活性化協議会委員15名 事務局3名 (欠席：木本正則氏、近藤高規氏、田中等氏)
傍聴者	3名
議 事	<p><u>1 開会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料確認。新規委員には「西尾市地域公共交通計画」を配布。 ・委員任期が平成29年3月末で満了となっているため、改めて委員の委嘱を行う。任期については、本日から平成31年3月31日までとさせていただきます。 ・中部運輸局愛知運輸支局から「活発で良い議論ができる会議のために。」についての説明。 <p><u>2 議題</u></p> <p><u>(1) 役員を選任について(協議事項)</u></p> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任期満了に伴い役員についても改めて選任させていただく。意見等がなければ事務局案を提示させていただきたい。 <p>◎全会一致で事務局案を承認。 会長：石原要之輔氏、副会長：荒川達彦氏、監査委員：颯田洪氏・岡田武宏氏</p> <p>○石原会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続きご推挙いただいたが、会長職はプレッシャーであり大きな責任がある。言うまでもなく公共交通はとても重要であり、何よりも日常生活を支えるものである。安全で安心な環境づくりのためには、各地域の方の声を聴くことが非常に大切となる。皆様のご支援ご協力をいただきながら、西尾市全体の公共交通体系を創りあげていきたい。 <p><u>(2) 平成28年度収支決算について(協議事項)</u></p> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1により説明。 <p>○颯田委員(西尾市名鉄西尾・蒲郡線応援団)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監査の結果、適正に執行されていたことの報告。 <p>◎議題(2)について全会一致で承認。</p> <p><u>(3) 市内公共交通の平成28年度実績について(報告事項)</u></p> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2により説明。 <p>○中村委員(西尾市障害者福祉団体連合会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いこまいかーは自宅まで来てくれるが、六万石くるりんバスはバス停まで行くのに時間がかかるし、お年寄りにはバス停までたどりつけない。いこまいかーがこれだけの経費で済んでいるのなら、より宣伝し利用者を増やしたらどうか。予約も必要で慣れないと利用は難しい。

○事務局

- ・知名度がまだまだ低いため、昨年度から地域の少人数の集まりに出向き使い方の説明を行っている。目的地までの移動案内も含めて使ってもらえるよう宣伝していきたい。

○岡田委員（中部運輸局愛知運輸支局 代理）

- ・冒頭で公共交通がピンチと話したが、いこまいかー以外は利用者が増えている。非常に嬉しいことだが今後も右肩上がりというのは難しい。六万石くるりんバスの利用者が伸びている実態として、どういう方がよく利用しているのか、高校生の通学か、高齢者か、今後の対策を練るために把握しておいたほうがいいが、わかれば教えてもらいたい。

○事務局

- ・西尾市でも高齢化が進んでいるが、車の保有率が非常に高く皆さん自家用車で移動してしまう。利用者については全体的に増えており、いこまいかーについては特に高齢者の利用が多くなっている。地域で話をすると車があるからいいと言われるが、将来も車に乗れるかはわからないため今のうちに習慣づけをしてほしい。そのためにもさらなるPRをしていきたい。

○石原会長

- ・自分もあと10年で80歳になる。準備のために普段から乗っておきたい。西尾市は車の保有が非常に多いが今後5年10年でかなりの影響が出てくると思う。今交通体系を整えておくことが将来の西尾市の発展につながるため、しっかりと現状を把握しながら対応していきたい。

○岡田委員（中部運輸局愛知運輸支局 代理）

- ・高齢者は元気なうちは車で歩けなくなってからバスに乗るよと言うが、そのタイミングではもうバスに乗るのは難しい。元気で車が利用できるうちから何らかの機会にバスに乗る習慣をつけておくことが重要である。

○岡田委員（西尾市民生委員児童委員協議会）

- ・いこまいかーの利用は1日あたりだと3人程度。どれだけ宣伝されても便利でなければ使えない。自分は幡豆地区だが、愛知こどもの国のある洲崎という地域はいこまいかーの行き先がこどもの国駅である。ホームまでの階段がかなりきつく高齢の方は登るのが難しくエレベーターもつけてもらえない。幡豆地区はほとんど利用がないのではないかな。

○石原会長

- ・それぞれの地域によって利用の仕方は違うと思う。事務局はそのことを頭に入れながら地域との話をしながら改善を進めていってほしい。

○岡田委員（中部運輸局愛知運輸支局 代理）

- ・デマンドタクシーについてはなぜ利用が増えていないのか、使い方がわからない、知らない人との乗合が嫌だ、予約の仕方がわからないなど利用者の声があると思う。そういう声を紹介し、地域に入って説明していくことが大切。県内の事例ではみよしのさんさんバス、安城のあんくるタクシーなど伸びている事例があるため参考にしていきたい。

(4) 一色地区コミュニティバス運行計画（案）について（協議事項）

○事務局

- ・資料3により説明。資料3の内容については、前回の会議でほとんど承認いただいているが、その後運行事業者の決定等新たな事項があったため、その部分について報告を行う。
- ・運行ダイヤについては、幹線系統のバス路線や佐久島渡船との乗継を考慮して決定した。今後運行事業者等との最終調整により若干修正する可能性があるが事務局一任とさせていただきたい。
- ・車両については、前回までは10人乗り程度の車両を予定していたが、事業者選定の際の提案により、東伸運輸㈱の既存所有車両を活用できることとなった。
- ・周知についても東伸運輸㈱からの提案により、実際のバス車両を用い、説明会と併せてバスの乗り方教室を実施する予定である。まず乗ってもらう機会を設けることでバスに乗ることのハ

ードルを下げていきたい。

○石屋委員（愛知県交通対策課 代理）

- ・今後の評価にも関わるが、利用者数の目標をどのように地区で決めたのか。
- ・今回新規路線ができるが、いこまいかーとの関係はどうなるのか。

○事務局

- ・目標値の理由としては、バス車両であれば5人以上は乗るよう盛り上げていきたいという理由と、六万石くるりんバスの運行開始当初が1便5人程度の利用であったため、まずは同じくらいの利用を目指し、六万石くるりんバスと同じように毎年利用を伸ばしていきたいという理由の2点である。
- ・いこまいかーの利用については地区ごとにより偏りがあり、一色地区においては佐久島を除きほとんど利用がないのが現状である。新規路線といこまいかーの役割が重複することがないよう整合性をとりながら、今後いこまいかーの変更を検討していきたい。

○岡田委員（中部運輸局愛知運輸支局 代理）

- ・ルートやダイヤは運行事業者とは調整しているのか。また、バス停の設置にあたり公安委員会等との調整具合を伺いたい。

○事務局

- ・事前調整として運行事業者の方で試走をしていただき問題ないとの確認をいただいている。
- ・バス停については、これまでに暫定の位置ということで公安委員会等に事前に相談している。本日の協議会で最終決定となるため、今後道路使用等の申請を行っていく。
- ・また、バス停設置箇所の隣接地権者へは地区自ら説明し了承いただくこととなっている。

○岡田委員（中部運輸局愛知運輸支局 代理）

- ・一色地区公共交通協議会は熱心に活動されているが、どういった方が中心となっているのか。

○事務局

- ・一色地区内の各小学校区の町内会長及び民生委員児童委員の計17名により組織されている。

○颯田委員（西尾市名鉄西尾・蒲郡線応援団）

- ・路線バス等との乗継ができるよう、接続利便性をしっかり考慮していただきたい。

○事務局

- ・一色町公民館での乗継を中心に考慮しダイヤを検討している。市の公共施設再配置事業により一色町公民館に公共施設が集約されるため、一色地区の全てのバス路線が乗継できるよう各バス路線のバス停も集約し、施設の待合環境を活かしながら利便性の向上に努めていきたい。

◎議題（4）について全会一致で承認。

（5）平成30年度生活交通確保維持改善計画（案）について（協議事項）

○事務局

- ・資料4、参考資料1により説明。

◎議題（5）について全会一致で承認。

3 その他

○石屋委員（愛知県交通対策課 代理）

- ・エコモビ推進表彰の候補団体募集のお知らせ。

○竹内委員（愛知県西尾警察署交通課）

- ・高齢者の運転免許証自主返納についての西尾警察署の取組を映像にて紹介。

4 閉会

以上